

県下 2 種のコメツキムシの分布 (兵庫県甲虫相資料・82)

高橋 寿 郎

ウバタマコメツキとフタモンウバタマコメツキはコメツキムシ科の中では大形に属しなかなかユニークな種である。ウバタマコメツキの方は県下でも割合広く分布している様であるがフタモンウバタマコメツキの方は余り産地が知られていない。現在までの県下の産地を記録しておく(筆者採集標本所有のものについてのみデータをつけた)。

ウバタマコメツキ：洲本市先山〔堀田，1976〕。川西市見野，笹部〔仲田，1978〕。宝塚市武田尾(1♀，25-VII-1954，T. Kishii det.)。神戸市烏原(3♀，15-VI-1952，T. Kishii det. 岸井 尚氏同定の標本は同氏が保管)(1♂，5-V-1968，1♂，5-VI-1980，1♀，7-VI-1980，1♂，13-VI-1980，1♀，22-VI-1980，1♂，22-VII-1980，1♀，26-III-1980)，藍那(1♂，5-VI-1978)，妙法寺(1♀，20-II-1979)。氷上郡〔山本，1958〕。出石郡伊東町中藤〔高橋，1963〕。美方郡浜坂町〔高橋，1975〕。(黒佐博士は本種が成虫越冬するらしく3月に神戸で採集とありまた幼虫の図説もある，新昆虫，8巻，5号，1955)。

フタモンウバタマコメツキ：神戸市摩耶山麓〔黒佐，1955〕，保久良神社〔野村，1938〕，再度山(1♀，20-VI-1979)，烏原(1♀，24-V-1979，1♀，17-VI-1980，1♂，19-VIII-1980)。明石市明石公園〔野崎，1942〕。氷上郡春日町〔高橋，山本，1962〕，美方郡浜坂〔高橋，1975〕。

以上が2種の県下の産地である。ウバタマコメツキの方は県中央部から北部，更に西部の方にも分布していると考えられる。フタモンウバタマコメツキの方の記録の内保久良神社産は戦前野村全氏が保久良神社境内の桜の枯木から2月6日(1938)割ってとり出した成虫3頭幼虫2頭を記録されたものであり，摩耶山麓の黒佐博士のものはクロマツの切株から採集された1♀(20-IV-1938)である(前記筆者のウバタマコメツキの妙法寺での記録のものは松の枯木の中から割ってとり出したものである)。その他では余り産地が知られていない。烏原はその点両者を割合産するように思う。産地から見て県下に広く分布していそうな気がするが(特にフタモンウバタマコメツキは淡路島あたりにはいると思われるのだが—)。オオウバタマコメツキは残念ながら県下での産が確認されていない。

両種の幼虫に就いては清水(1952)，黒佐(1955，1959)，大平(1962)の図説がありウバタマコメツキは松樹根株の樹皮下にいるがフタモンウバタマコメツキの方は各種の潤葉樹の倒木

や根株の樹皮下にいとされている。

県下 2 種のタマムシの分布 (兵庫県甲虫相資料・85)

高橋 寿郎

ヤスマツケシタマムシは小さいが美しい種である。たゞ本種の兵庫県下からの記録は次の3地点しか知られていない。小形種なるが故に見落されていると考えられる他の産地の記録の発表を待ちたい。

氷上郡青垣町神楽 [1 ex., 10-V-1958, 待場嘉昭採集, 山本義丸, 高橋匡, 1962]。宍粟郡波賀町音水溪谷 [1 ex., 11-VI-1972, 筆者採集, 所有], 赤西溪谷 [2 exs., 29-IV-1977, 松田潔採集, 秋山黄洋, 1980]。

ルイスヒラタチビタマムシは戦前神谷一男氏によって関口俊雄画伯の見事な筆による原色で図説されて是非自分の手で採集したいものだと思っていた種である (日本の甲虫, Vol. 1, No. 1, P. 4, pl. 1, fig. 7, 1937)。

兵庫県下からの記録は奥谷禎一博士による養父郡関宮産が始めてである (新昆虫, Vol. 8, No. 5, 1955)。その後辻啓介氏は多紀郡篠山町篠山城天守閣跡の石垣のノバラの葉についていたのを採集発表され (1 ex., 10-V-1962, 兵庫生物, Vol. 6, No. 2, 1970), 遊磨正秀氏も養父郡氷の山で採集されている (中国山脈東端の昆虫相, 1974)。筆者は相生市三濃山で叩き網で採集した (1 ex., 20-V-1973)。以上が現在わかっている本種の県下での記録である。倉本康司氏は1977年氷上郡山南町和田地区で冬季ケヤキの樹皮をめくってゆくと本種が多数いることを御教示下さった。その様な方法で探して見ると本種は割合いる種なのかもしれない。美しいが小さい故に見落されているとも思われる。産地の報告を期待したい。